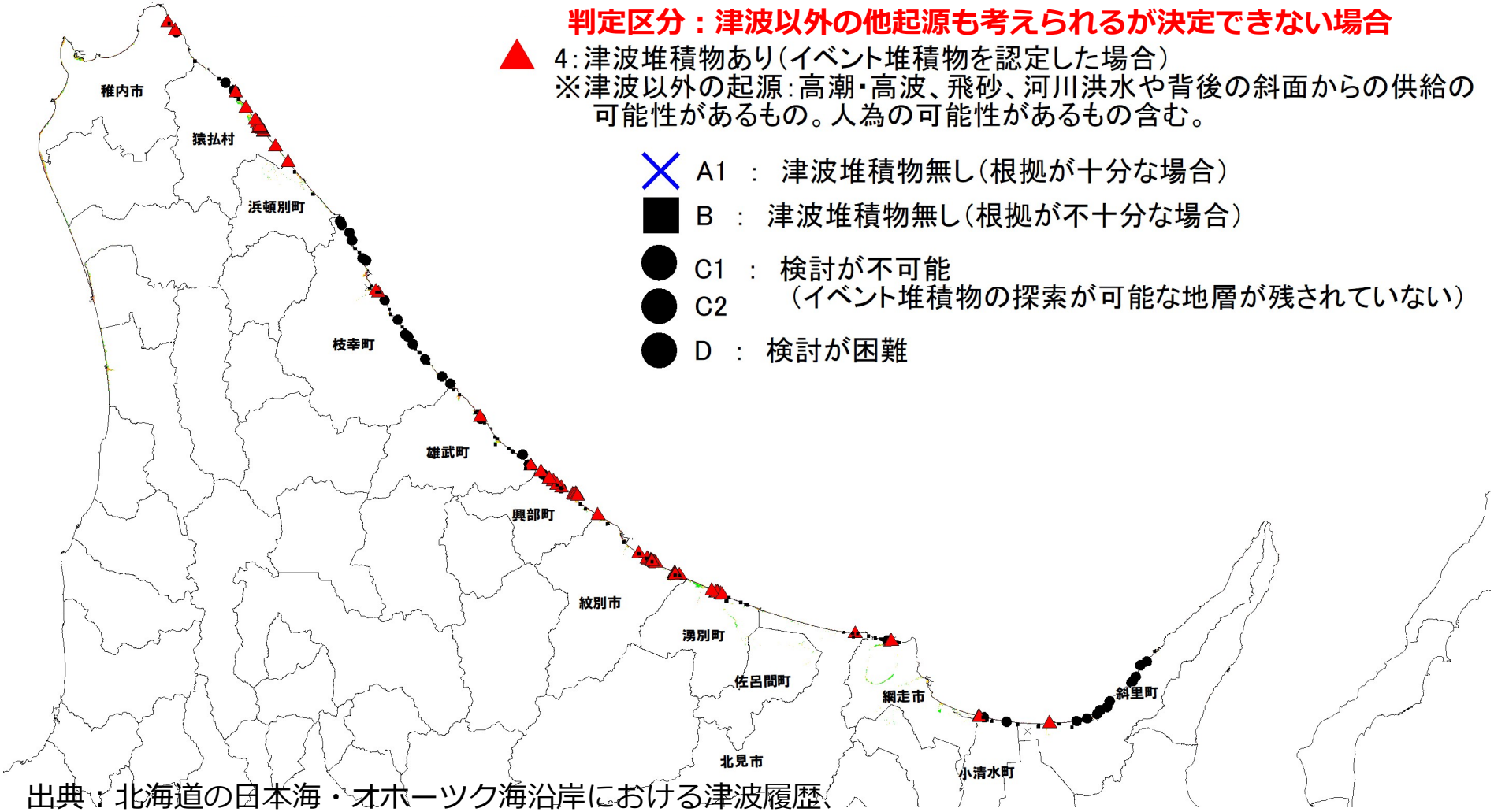
2－①　過去に発生した津波の実績津波高の整理

■津波堆積物の有無および確実度に関する判定区分

津波堆積物の有無および確実度に関する判定区分



判定区分：津波以外の他起源も考えられるが決定できない場合

▲ 4：津波堆積物あり（イベント堆積物を認定した場合）
※津波以外の起源：高潮・高波、飛砂、河川洪水や背後の斜面からの供給の可能性があるもの。人為の可能性があるもの含む。

× A1　：　津波堆積物無し（根拠が十分な場合）

■ B　：　津波堆積物無し（根拠が不十分な場合）

● C1　：　検討が不可能
● C2　　（イベント堆積物の探索が可能な地層が残されていない）

● D　：　検討が困難

出典：北海道の日本海・オホーツク海沿岸における津波履歴、
（地独）北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所　調査研究報告　2015、第42号

2-②最大クラス津波の設定の手順

1．最大クラスの津波の設定単位

最大クラスの津波の設定は、地域海岸ごとに設定することが基本

2．最大クラスの津波の設定手順

① 過去に発生した津波の実績津波高の整理

- ✓ 痕跡高調査・津波堆積物調査・歴史記録・文献等を活用

② 過去に発生した津波の津波高のシミュレーションによる想定

- ✓ 地震発生の記録はあるが、津波高のデータが無い場合は、可能な範囲で津波浸水シミュレーション等により津波高を想定

③ 発生が想定される津波の津波高の整理

- ✓ 想定地震により引き起こされる津波の津波高を整理・活用

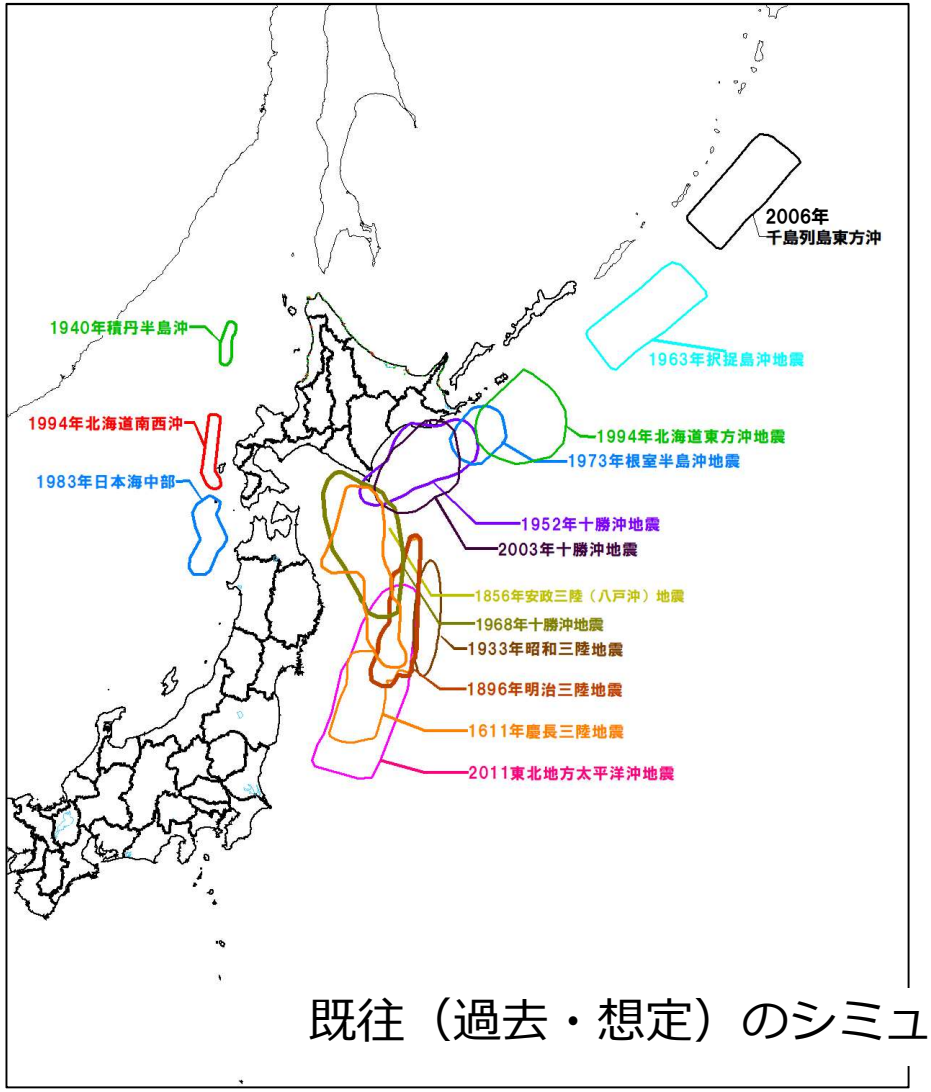
④ 最大クラスの津波の設定

- ✓ 上記で整理した津波からグラフを作成し、津波高が最も大きい津波を最大クラスの津波として設定
- ✓ 今後、中央防災会議等において検討が進み、想定地震の規模や対象範囲の見直し等が行われた場合には、適宜見直すことが必要

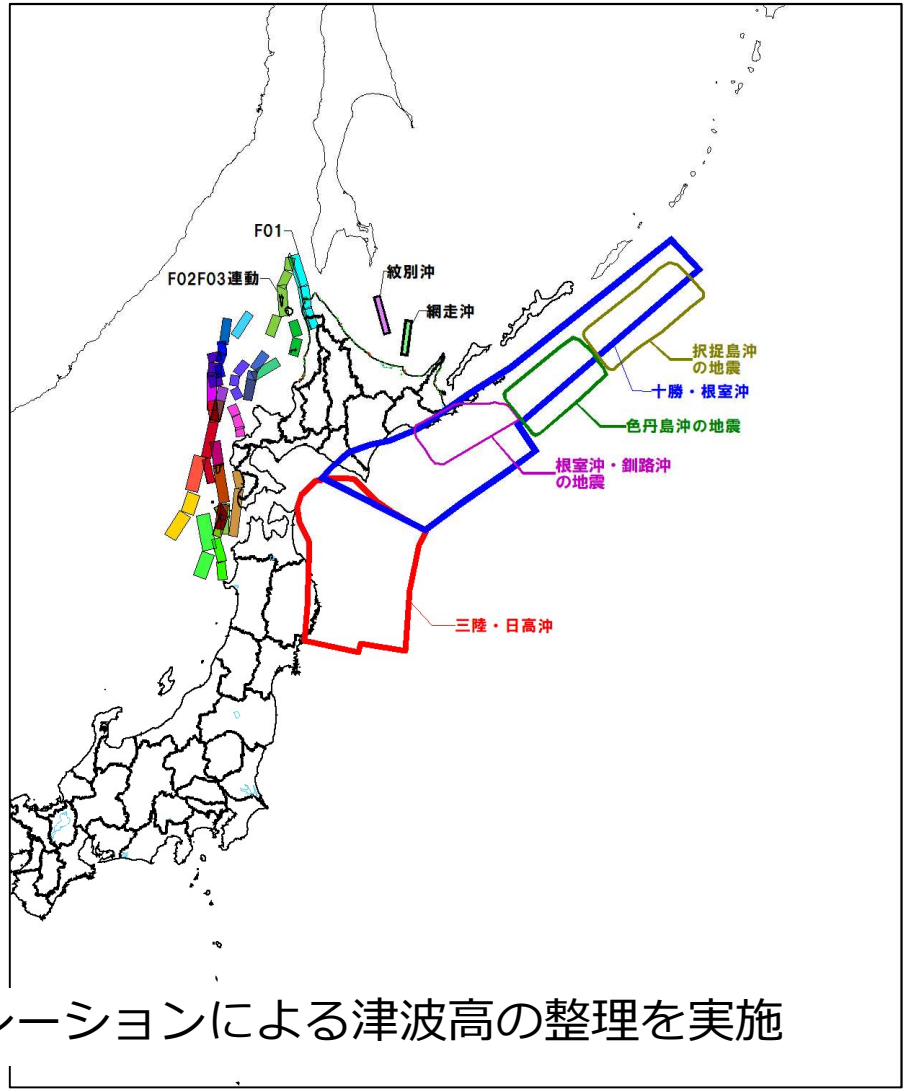
出典：津波浸水想定の設定の手引きver2.10（国交省，2019.4）

２－②　過去津波のシミュレーションによる津波高の整理
２－③　既往想定津波のシミュレーションによる津波高の整理

過去津波の推定波源域



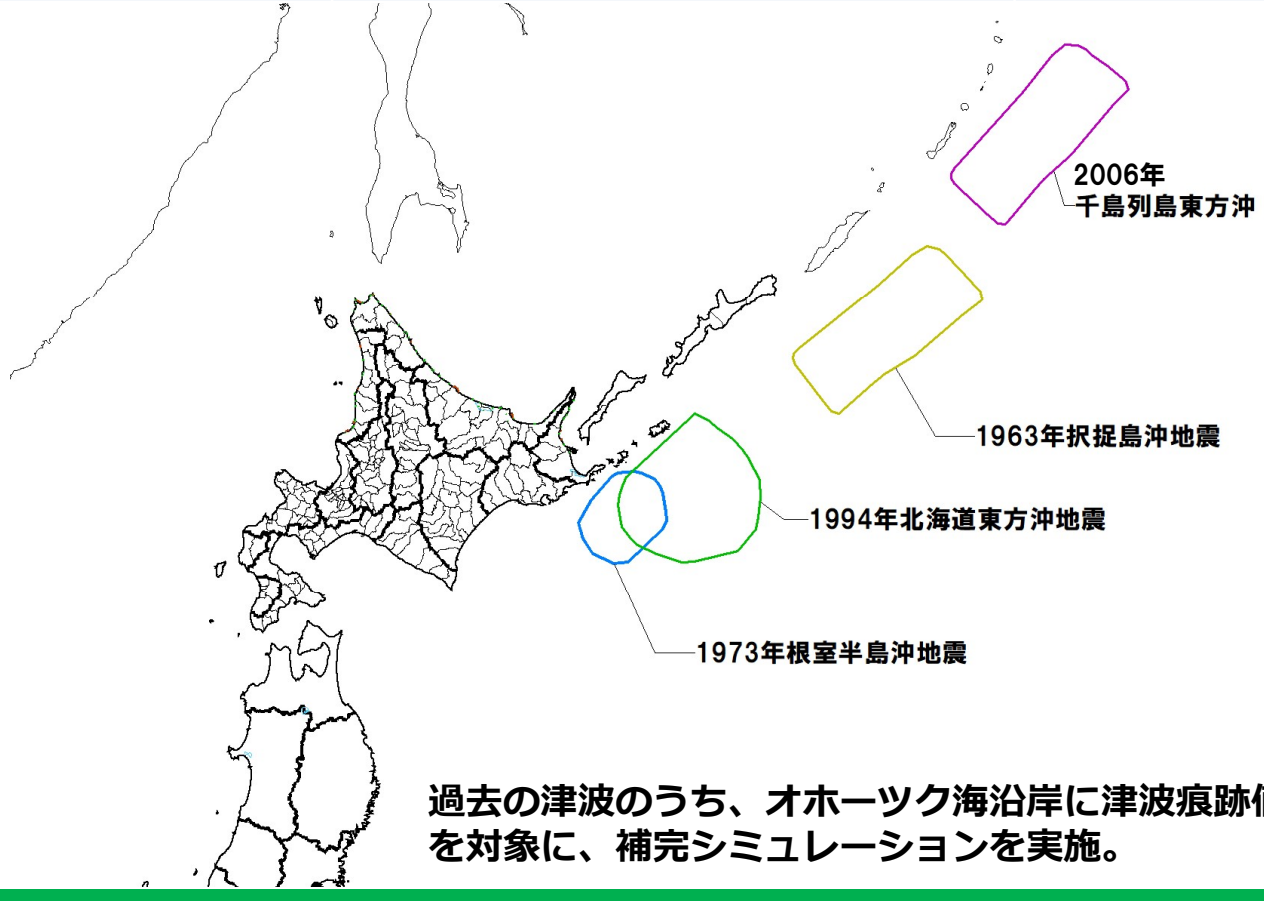
既往検討の想定津波の波源域



既往（過去・想定）のシミュレーションによる津波高の整理を実施

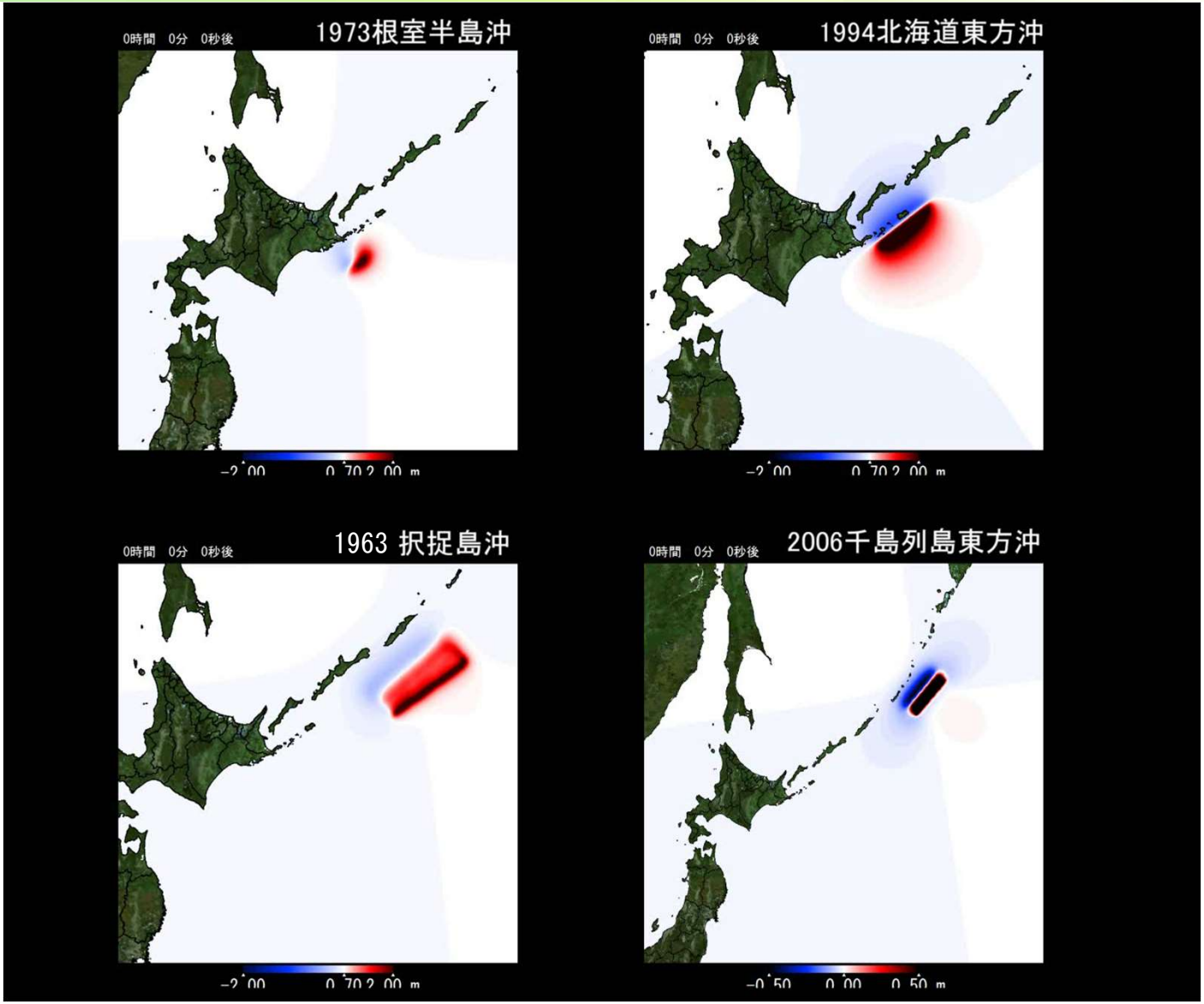
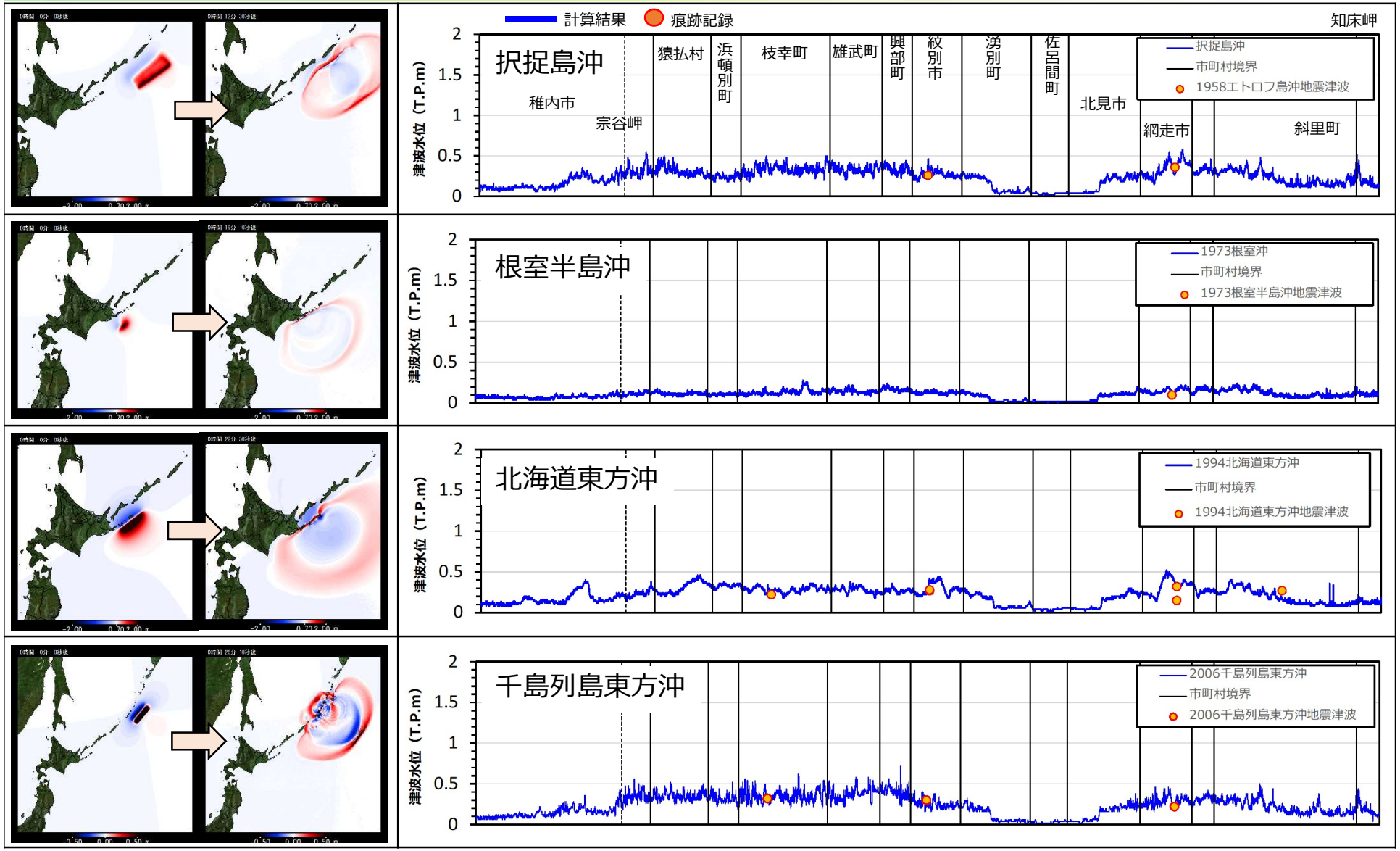
２－②　過去津波のシミュレーションによる津波高の整理

過去津波	津波断層モデル	備考
択捉島沖	中央防災会議（H18）	択捉島沖の地震津波に相当
根室半島沖	中央防災会議モデル（H18）	痕跡記録は、漁港・港湾に数点と沿岸部に津波高のデータがほとんどないため、補完シミュレーションを実施
北海道東方沖	高橋ら（1995）	
千島列島東方沖	伊尾木・谷岡（2009）	



過去の津波のうち、オホーツク海沿岸に津波痕跡値のデータが存在する地震を対象に、補完シミュレーションを実施。

２ー②　過去津波のシミュレーションによる津波高の整理
試計算結果：津波伝播動画



2－②　過去津波のシミュレーションによる津波高の整理
補完シミュレーション結果